

調査の概要

□令和8年4月23日(木)実施

○調査内容

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・教科に関する調査は、小学校・中学校共に国語、算数・数学、中学校のみ英語を出題
- ・主として「知識」に関する問題と、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など)に関する問題が統一されて出題。また、生活習慣・学習環境等に関する質問調査を実施

○参加状況

- ・参加学校数 10校 (小学校4校・中学校2校・義務教育学校4校)
- ・参加児童生徒数 242名 (児童124名・生徒118名)

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学		中学英語 (平均IRTスコア)		教科 平均	
小学校	根室市	52.0		44.0				48.0	
	(北海道との差)	△ 8.0	拡	△ 10.0	縮			△ 9.0	
	(全国との差)	△ 8.9	拡	△ 12.4	縮			△ 10.7	縮
	北海道	60.0		54.0				57.0	
	全 国	60.9		56.4				58.7	
中学校	根室市	50.0		35.0		420.0		42.5	
	(北海道との差)	△ 13.0	拡	△ 20.0	拡	△ 70.0		△ 16.5	拡
	(全国との差)	△ 13.9	拡	△ 22.0	拡	△ 79.0		△ 18.0	拡
	北海道	63.0		55.0		490.0		59.0	
	全 国	63.9		57.0		499.0		60.5	

※中学校は国語・数学
の平均値

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較 (拡：拡大、縮：縮小) >

IRTスコアとは、設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準とした得点で表したものです。

参考：令和7年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学				教科 平均	
小学校	根室市	59.0		43.0				51.0	
	(北海道との差)	△ 6.0	拡	△ 12.0	拡			△ 9.0	拡
	(全国との差)	△ 7.8	拡	△ 15.0	拡			△ 11.4	拡
	北海道	65.0		55.0				60.0	
	全 国	66.8		58.0				62.4	
中学校	根室市	50.0		31.0				40.5	
	(北海道との差)	△ 4.0	縮	△ 16.0	拡			△ 10.0	縮
	(全国との差)	△ 4.3	縮	△ 17.3	拡			△ 10.8	縮
	北海道	54.0		47.0				50.5	
	全 国	54.3		48.3				51.3	

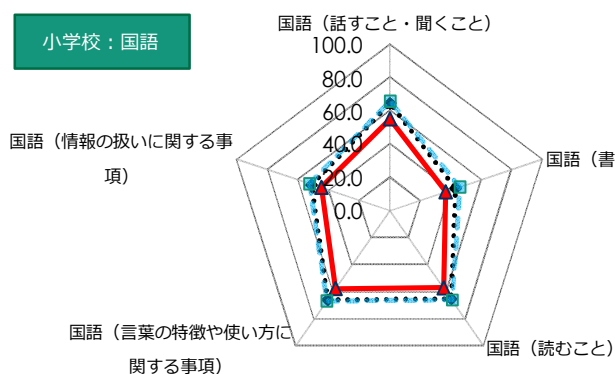
<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較 (拡：拡大、縮：縮小) >

領域別レーダーチャート

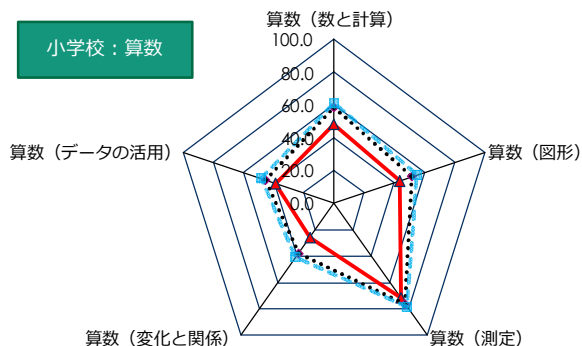
学習指導要領の領域の平均正答率の状況（中学校英語はIRTスコアで表示されるため、レーダーチャートに表示していません）

▲ 根室市内小学校 ◆ 北海道（公立） ■ 全国（公立）

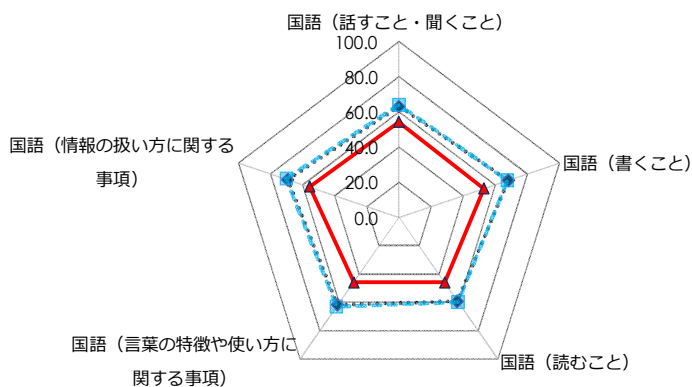
小学校：国語



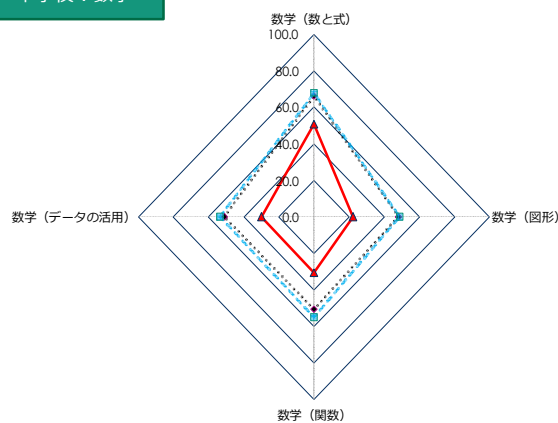
小学校：算数



中学校：国語

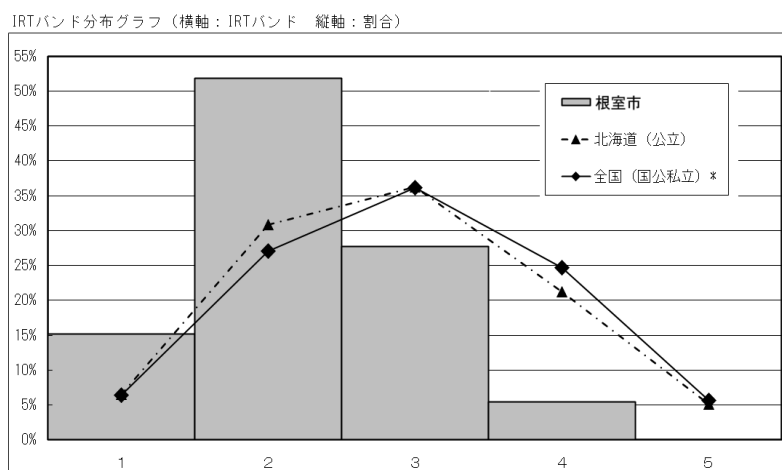


中学校：数学



中学校：英語

IRTバンド分布グラフ
（縦軸：IRTバンド
横軸：割合）



IRTスコアとは、設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準とした得点で表したものです。
IRTバンドとは、IRTスコアを高い順に5, 4, 3, 2, 1の5段階に区切り、3を基準にしたものです。

学力状況調査の結果から

(小学校)

- 全国及び全道との差について、国語は前回（令和7年度）よりも差が広がり、算数は差が縮んでいる。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は△8.0ポイント、全国との差は△8.9ポイントとなっている。
算数は、全道との差は△10.0ポイント、全国との差は△12.4ポイントとなっている。
- 学習指導要領の内容の平均正答率の状況を見ると、
国語においては、「書くこと」に、苦手さがみられる。
算数においては、特に「変化と関係」が、全国・全道と比較して落ち込んでいる。

(中学校)

- 全国及び全道との差について、国語・数学ともに前回（令和7年度）よりも、差が広がっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は△13.0ポイント、全国との差は△13.9ポイントとなっている。
数学は、全道との差は△20.0ポイント、全国との差は△22.0ポイントとなっている。
- 学習指導要領の内容の平均正答率の状況を見ると、
国語においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に、苦手さがみられる。
数学においては、特に「図形」「関数」「データの活用」が、全国・全道と比較して落ち込んでいる。
- 英語においては、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表されている。
スコアから、全道との差は△70、全国との差は△79となっている。

結果と今後の取り組みに向けて

○昨年度と比較すると、小学校・義務教育学校前期では算数で全国及び全道との差が縮まり、中学校・義務教育学校後期では、国語、数学で全国及び全道との差が広がる結果となりました。

○小学校・義務教育学校前期の国語では「自分の考えが伝わるようにテキストから引用して書く問題」に課題が見られました。自分の考えを伝える活動において、自分の考えだけではなく、本の記述や記事を引用したり、具体例を使って話したり書いたりすることで、自分の考えの効果的な伝え方を身に付け、さらに表現したいと思える授業改善が必要です。

○小学校・義務教育学校前期の算数では、「変化と関係」に課題が見られました。実生活の場面と照らし合わせて2つの数量の関係を考えるときに、公式や言葉だけではなく、図や数直線に表しながら2つの数量の関係を説明する活動を行う授業改善が必要です。

○中学校・義務教育学校後期の国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題が見られました。文法のきまりを暗記するのではなく、実際の生活でのコミュニケーションから例を取り上げ、生徒が自ら言葉への自覚や言語感覚を高める授業を展開していく必要があります。

○中学校・義務教育学校後期の数学では、「図形」「関数」「データの活用」において課題が見られました。問題文の記述や、図、グラフから、問題解決に必要な情報を読み取ったり、数量の関係を図やグラフに表し、筋道を立てて説明する活動を増やしていく授業改善が必要です。

○中学校・義務教育学校後期の英語では、「事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書く」問題に課題が見られました。伝えたいことを整理し、相手に伝えるコミュニケーション活動を増やしていく授業改善が必要です。

○今後も、児童生徒の興味・関心に基づく多様な学習ニーズに答える教育活動を展開しながら、子どもたち一人一人が意欲を持って学習に取り組めるよう授業改善を進めます。

将来の根拠を担う子どもたちが、予測困難な社会を生き抜く力を育てていくために、学校・家庭・地域及び行政が、それぞれの役割を明確にし、連携を取り合いながら取組を進め、さらなる学力向上に向け、児童生徒の学習状況の改善に努めてまいります。